

成果報告書

湘南藤沢学会 「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」

リンクサイン早川理絵・鈴木理歩

課題：聴覚障害者への理解、特に医療現場における対応の向上

1 目的

多くの病院では患者＝健常者という意識が根付いている。そのため、生命に関わる医療現場では、聴覚障がい者への情報保障対策が深刻な問題となっている。たとえば、医者が話すときに、マスクをとってくれず、口の形の読み取りが不可能になり意思疎通が出来ないことがあげられる。このような問題に対するアプローチ方法を二つ挙げる。一つ目は医療従事者、聴覚障がい者支援の分野でご活躍されている方々をお招きし、お話し頂くことによって聴覚障がい者医療の現状を広く知って頂くという方法である。二つ目はイベントを通して学生間での意見交換の場を設けることで、より一層医療従事者や医療系学生の視野を広げ、今後の聴覚障がい者医療の向上に寄与する機会を設けるという方法である。これらの方法を用いることによって、聴覚障がい者が直面している問題を解決し、暮らしやすい社会につなげるということが我々の目的である。

2 概要

■Student Networking Party (以下、SNP)

場所：Green's Line (渋谷)

日時：2010年12月17日 (金) 18:30～20:30

■早瀬久美氏講演会

場所：エッサム本社ビル 3階グリーンホール

日時：2011年1月15日 (土) 14:00～16:30

3 趣旨

3.1 SNP

SNP 開催の目的としては二つ挙げられる。一つ目の目的として、イベントの共同制作の促進、活動範囲の拡大化を意図したネットワーク作りである。さまざまな活動をしている学生団体との交流を通して、斬新なイベントや共同制作イベントを作成できるきっかけとなると考えられる。二つ目は、広報・啓発活動である。われわれは聴覚障がい者問題がなかなか解決しない原因の一つとして聴覚障がい者問題が健常者に知れ渡っていないことを挙げている。聴覚障がい者福祉の現状や課題を伝えることにより、関心をもってもらい、聴覚障がい者の問題を少しずつ改善していくことを意図したものである。

3.2 講演会

現在、大学の授業などで聴覚障がい者医療に関する授業は少なく、医療系学生にとって聴覚障がい者の抱える問題や現状を学べる場が乏しい。さらに、実際に働いている医療従事者からも聴覚障がいを持った患者への対応方法がわからず戸惑うことがあるということもよく耳にする。そこで、講演会を開催し、聴覚障がい者医療に携わっている方の現場の声を聞くことで、医療系学生や医療従事者に対して聴覚障がい者医療の現状を知ってもらったり、考えてもらえるような場を設ける必要があると考え、開催に至った。

4 成果

4.1 SNP

SNP を開催したことによって、今回挙げていた二つの目的、ネットワーク作りと広報・啓発活動の向

上は達成された。結果として、慶應義塾大学学生団体リンクサインに、新しいメンバーが参加することになった。しかし、参加団体が少なかったこともあり、意図していたものよりも効果は少ないものとなってしまった。今回の反省点としてメンバー内で話し合った結果、広報活動が弱かったことが挙げられた。今回の広報方法・手段を再度見直し、より効率的な広報活動を目指す必要がある。

もともと意図していた目的に加え、意図していなかった効果もあった。それは、よりよい活動にするための考察とメンバーのモチベーション向上である。団体の活動内容をアウトプットすることにより、活動内容を振り返ることができる。それが自らの活動の再評価につながり、よりよい活動を考察し、実行することにつながる。そしてそれらの影響により初心にかえることができ、活動に対するモチベーション向上効果があった。

4.2 講演会の成果

講演会では、日本で初めて聴覚障がい者で薬剤師の国家資格を取得し、現在昭和大学病院にて薬剤師として活躍されている早瀬久美さんをお招きして、早瀬さんご自身の聴覚障がい者としての実体験や医療従事者としての視点からみる聴覚障がい者医療の現状についてお話して頂いた。参加者は25名程で、医療系学生や医療従事者だけでなく、幅広い学部や職業の方に参加して頂いたことによって、講演会で得られたであろう聴覚障がい者に対する知識や理解が医療の分野ではもちろんのこと、日常生活も含め様々な分野で生かすことができると考えられる。参加者の方々からはまたこのようなイベントに参加したい、それぞれの生活や職場で生かせると思うと等、多くの意見を頂いた。



講演会の風景

5 今後の展望

今までは、専門的で実践的な知識を得る機会がない状態で、聴覚障がい者に対する医療についてのイベントを行ってきた。しかし今後は、活動で得た専門的でかつ実践的な知識や見解を聴覚障がい者に対する医療を見直すためのイベントを行うときの基盤として、企画や実践をしていき、聴覚障がい者に対する医療の現状をこれからも多くの方に知って頂き、考える機会を増やしていきたい。そのためにも、「知る場」「考える場」の提供をイベントの開催を通してこれからも続けていきたいと考えている。講演会などで聴くことのできた様々な方のお話の中で、私たちが発見することのできた問題意識を取り上げ、今後のイベントにつなげ、より聴覚障がい者に対する医療の現状を改善していきたい。

謝辞

本プロジェクト実施において、講演会、イベントのゲストの皆様、ご来場された皆様に感謝したい。本研究は、慶應義塾大学湘南藤沢学会と SFC 政策研究支援機構の支援のもと行われた。